

持続可能な地域づくりの循環拠点として 週末の幼稚園を活用した園庭開放の可能性 ～地域資源のなかで育つ子どもたち～

学校法人久光学園 志のぶ幼稚園

研究代表者 岡 秀樹

他 7 名

1. はじめに

弊園が所在する目黒区の私立幼稚園園児数は、平成 27 年度が 3,232 人であったのに対し、令和 5 年度には 1,941 人(60.1%)まで減少した。このまま減少が進行すると令和 13 年度には 1,166 人、令和 21 年度には 700 人となる。また『目黒区子ども総合計画』内の子ども・子育て支援事業計画において、令和 5 年度の予想は 3,012 人であることから、実数との差異は 1,071 人と乖離している。これほどまで予想と実数が乖離した要因として、目黒区が平成 29 年 4 月の保育所待機児童数が世田谷区、岡山市に次いで全国ワースト 3 位になったことにより、保育所を量産したことがひとつの要因であると考えられる。令和 2 年 4 月には待機児童ゼロを達成したが、その後しばらくの間保育所は増え続けた。

保育所の量産は、共働き世帯の保護者のニーズは捉えるものの、子どもたちの環境はどうだろうか。目黒区私立認可保育園、小規模保育施設、事業所内保育所では、令和 5 年 6 月 1 日現在、96 箇所中 63 箇所にあたる 65.6%の施設に園庭が存在しない。さらに、幼稚園の設置基準の最低園庭面積(330 m²)に達する保育所は 2 箇所のみとなり、園庭が存在する施設であっても充実した外遊びができる環境があるとはいえない。このままでは、幼児期に園庭と出会うことのない子どもたちが大量生産され、そのような環境の中で、生きる力を育むことができるのかと危機感を募らせる。

このような地域的な背景とともに、新型コロナウイルスの影響により地域交流が希薄になるなか、地域のなかで子どもが育つ環境が喪失していることへの危機感とが合わさり、弊園では、在園児に限らず地域の子どもたちを対象に、週末の幼稚園を活用した園庭開放「志のぶわいわいパーク」を継続的に開催している。

本論では、そのような場が持続可能な地域を形成するうえで有効であるという仮説を立て、「持続可能な地域づくりの循環拠点として週末の幼稚園を活用した園庭開放の可能性～地域資源のなかで育つ子どもたち～」と題し研究を試みる。

2. 地域とは

地域とはいったい何か。学術的な定義を引用すると「地域とは、地表面においてある場所的関係性にもとづいて他から区別して認識される一定の広がりをもった空間をさす」

(木内 1968) としている。また三橋は「人が地域で生活していくことは、そこで他者と様々な社会的な関係を結び生きていくことにほかならない。将来に思いをはせながら、働き、学び、憩う日々の暮らしがそこにある。この社会的関係、地縁的關係で結ばれたある空間的な範囲」と地域の定義を補足し、さらに地域を構成する要素として、自然的要素（地象・気象・水象など）と人文社会的要素（歴史・文化・産業経済・社会）をあげている。

弊園は、明治 44 年に小石川で開園し、昭和 11 年に現在の目黒区平町に園舎を移した。当時の自然的要素を『久光』にて「ここ平町は、空気が澄みきっていて清らかであり、土地が高く湿気が少なく、周囲は広々としてひらけており、自然の美しい眺めに恵まれ、ここで幼児を保育することは自然の力と互いに影響しながら最適の土地と考えたのである。」と記している。当時の園周辺は麦畑であったが、その後東京大空襲、やがてバブル期には地価が高騰し住宅地として整備され、空き地など子どもたちにとっての自由な居場所が消失し、周辺の自然的要素は人が自然に対し影響を与えながら変化していった。一方、人文社会的要素は、創設者である初代蟻川久江園長の志を継承し、その時々の保育者が時代背景や自然的要素を保育に取り込み実践を積み重ねながら生成してきた。

先述の通り、目黒区の私立幼稚園の園児減少率がこのまま進行すると、幼稚園は持続可能な地域の幼児教育を担う拠点としての役割が縮小し、存在意義が危ぶまれる。そこで筆者は、幼稚園を在園児中心の限定した空間のみで考えるのではなく、地域に開かれた循環拠点という視点で捉え、地域資源としての可能性を再考し発信することが必要であると考えた。

3. 地域資源としての幼稚園

地域は、自然的要素を基盤として人文社会的要素が加わり、様々な人のつながりのなかで多様な地域社会が生み出されてきた。田中は「地域社会で何らかの価値を付与され、受け継がれ続けてきたものを「地域資源」としており、さらに地域資源の価値と活用法について、「歴史の長さのみでなく、地域社会や自然、様々な技術、生活、人のつながりを切り離しては考えられない」と述べる。上記を読み解くと、地域社会において何らかの価値を受け継がれ続けてきたなかのひとつとして幼児教育を担う幼稚園があり、まさに幼稚園は地域資源の対象として捉えることができる。

しかしながら幼稚園を地域資源として捉える意識は社会に根付いていない。現状は、幼稚園から地域資源としてのあり方を提示しなければ、資源の価値を共有することができない。価値を共有するには、幼稚園が開かれた場所になることが必須だ。そこで筆者は、デッドタイムとなっている週末の幼稚園の園庭を活用しながら、子育て世帯を中心とした地域に住む人々をつなげることを目的とした居場所を作ることが、地域のなかで幼稚園という資源を再考し、価値を共有するきっかけになるのではないかと考えた。

4. 時間軸循環と地域循環

子どもを中心に交流する場をつくる際、子どもの身近な存在から広げていくと、家族、友達、友達の家族、先生、地域住民、児童館等の施設、地域店舗・企業などの順となる。これらの存在を持続可能な地域づくりの構成員という視点で捉えた場合に浮き上がってくるのが、図1に示した2つの循環カテゴリーである。まずは縦軸となる時間軸循環である。これは主体である子どもが、産声をあげ(場合によってはお母さんのお腹のなか)、そこから未就園児→在園児(他園児)→卒園児(就学児童)→保護者のように、自分自身が時間の経過とともに地域のなかで立場が変わりながらも時間軸を超えながら地域のなかで循環していくという考えである。

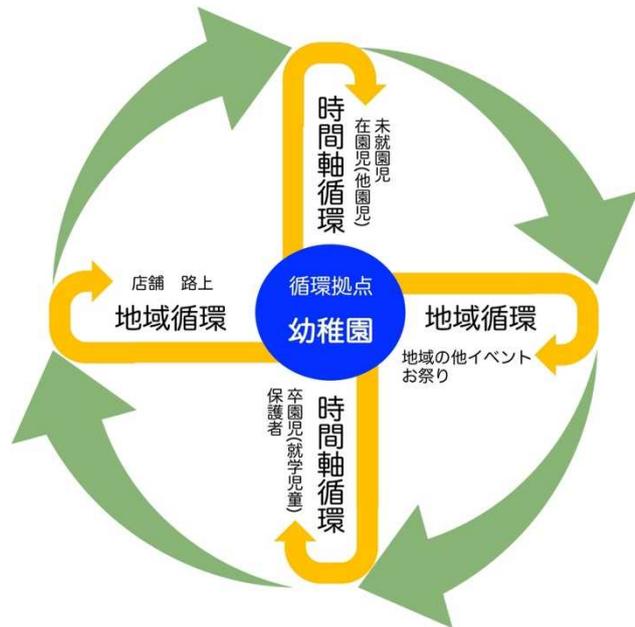


図1 循環拠点としての幼稚園

もうひとつは、横軸となる地域循環である。これは、地域の大人と子どもが出会い、地域で再会し(店舗・路上・地域の他イベント・お祭りなど)、その後定期的に対面交流を繰り返していくという考えである。

この2つの循環を同時に進行しながら連動していくことが持続可能な地域づくりにとって重要なキーワードとなる。

5. 地域づくりの循環拠点としての「志のぶわいわいパーク」の可能性

地域資源である幼稚園が、2つの循環拠点を実現する場所となるためには、①子育て世帯を中心とした地域に住む人々をつなげ交流することができる居場所づくり②資源の価値を地域のなかで共有し発信すること③子育てに纏わる地域のステークホルダーとの連携、これら①～③の要素を盛り込んだ具体的実践が必要である。

そこで2022年4月から、子どもの所属(幼稚園・保育所など)に関係なく、地域の大人と子どもたちが気軽に集い交流する場として、また子どもが地域の様々な資源と出会い自然体験など多様な経験を積み重ねながら育つ場として「志のぶわいわいパーク」をスタートさせた。この取り組みを通して、



志のぶわいわいパーク初回のフライヤー

子どもを先頭にした持続可能な地域の循環拠点としての幼稚園の存在意義を見出し、場の可能性を広げることがねらいである。

6. 「志のぶわいわいパーク」の構想

まず時間軸循環の具現化として、卒園児や卒園児保護者のボランティア参加など様々な年代の関係者を巻き込み、年齢や立場によって区切られるのではなく、どの立場でも参加が可能な入り口を作った。次に地域循環の具現化として、子どもが地域のなかで循環する行動範囲にある、おもちゃ屋、絵本屋、駅長・駅員など地域のステークホルダーと連携し出店や交流を試みた。また時間軸循環と地域循環にまたがるステークホルダーとして卒園児や卒園児保護者が参加する地域のボーイスカウトを巻き込んだ。

1年目(2022年度)は「志のぶわいわいパーク」を地域に定着させるため、アーティスト・パフォーマー・駅長など様々なゲストを招きエンターテインメントの要素を盛り込んだ。このように来場者がわくわくする仕掛け作りをしながら、同じ地域に住むもの同士で共通の体験をすることにより交流の場を育てていった。



nijino picture book store
ニジノ絵本屋



7. 「わいわいプレイパーク」のねらい

2年目(2023年度)は共通の体験にプラスして、一人ひとりの子どもの想像力を膨らまし創造する場として、第2園庭を「わいわいプレイパーク」と称し「志のぶわいわいパーク」との同時開催をスタートさせた。

プレイパークはデンマークで誕生し、日本では1979年に世田谷区羽根木にはじめて作られたが、目黒区には未だ常設のプレイパークは存在しない。園庭が存在しない施設が急激に増え「園庭がない×プレイパークがない」という地域性により週末の幼稚園を活用したプレイパークの実践は、まさにないものを補う要素がある。

プレイパークは、子ども自身が責任を持ち、遊びを切り開いていく。但しそこには遊びを活性化させるためのプレイワーカーの存在が重要である。遠藤は「子どもの遊び場では、子ども同士、大人同士、親と子ども、地域の人と子ども…様々な人の間に立って、私たちプレイワーカーはつなぎ役をします。会議で仲立ちをして進行する人をファシリテーターと言いますが、まさにその仕事を会議だけでなく、あらゆる場面で行っています。」とプレイワーカーとファシリテーターの関係を述べている。徳田はファシリテーターについて「時に「助産師」にたとえられる。産むのはお母さん、生まれてくるのは赤ちゃん。

助産師さんが代わりに産むわけではない。助産師の仕事は、お母さんがもともと持っている「産む力」、赤ちゃんがもともと持っている「生まれてくる力」を引き出し、育むことで、出産を支援・促進することである。」と説明しており、さらにファシリテーターと地域の関係について「ファシリテーターが地域づくりの「答え」をもっているわけではない。あくまでも、参加者一人ひとりがもっている「学ぶ力」を引き出し、相互の関わり合いを育むことで、「豊かな知恵が生まれてくる」ことを支援・促進するのがファシリテーターの役割である。」と述べている。このことから地域におけるファシリテーターとプレイパークにおけるプレイワーカーは、主を支援・促進する点で役割が重なることがわかる。

そして「わいわいプレイパーク」は、2023年1月より、品川区のプレイワーカー金井豊明氏を迎え、地域の子どもたちの遊びを支援・促進し、主に廃材を活用しながら秘密基地づくりをスタートさせた。



8. 「志のぶわいわいパーク」概要

2022年4月からスタート。

<2023年度開催内容>

○「志のぶわいわいパーク 7」2023年4月22日(土)

- ・わくわくドキドキ♪マミー：おもちゃのマミーminimini パーク
- ・わいわいプレイパーク～秘密基地を作ろう 3「春アート!?!」～：かないっちょ
- ・わいわいテイクアウト：UQAN
- ・一期一絵本コーナー：ニジノ絵本屋
- ・わいわい体操：ゆういち先生

○「志のぶわいわいパーク 8」2023年6月24日(土)

- ・わくわくドキドキ♪マミー：おもちゃのマミーminimini パーク
- ・わいわいプレイパーク～秘密基地に虹色の屋根をかけよう！～：かないっちょ
- ・一期一絵本コーナー：ニジノ絵本屋
- ・フリーマーケット：リトルケルメス市
- ・ボーイスカウトコーナー：ストローを使って遊ぼう！
- ・わいわい体操：ゆういち先生

○「志のぶわいわいパーク 9」 2023 年 9 月 9 日(土)

- ・わくわくドキドキ♪マミー：おもちゃのマミーminimini パーク
- ・一期一絵本コーナー：ニジノ絵本屋
- ・わいわいプレゼント大会：おもちゃのマミーTシャツ&ニジノ絵本屋
- ・わいわい木育コーナー：カンナくずプール
菅原和利(東京・森と市庭)
- ・わいわいプレイパーク：秘密基地であそぼう！&クエ
スションランド～9つのQ(キュウ)をさがせ！：
かないっちょ
- ・わいわいテイクアウト：UQAN
- ・わいわい体操：ゆういち先生
- ・ボーイスカウトコーナー：救急の日 SP～アルファ米&三角巾チャレンジ～



多摩産材を使ったカンナくずプール



○「志のぶわいわいパーク 10」 2023 年 11 月 25 日(土)

- ・ノーマン先生と遊ぼう！：ゲスト ノーマン先生(from フィリピン)
- ・バドバドピック(じゃんけん)大会：フィリピン産バナナ&ニジノ絵本屋
- ・バナナダンス：ノーマン先生、ゆういち先生
- ・わいわいプレイパーク：秘密基地であそぼう！&ワンダーランドに10(塔)があらわ
れる!?!さらにワールド!ぼくのわたしの旗をつくろう!つくった旗をかないっちょ
に見せたら…プレゼントがもらえるぞ!：かないっちょ
- ・一期一絵本コーナー：ニジノ絵本屋
- ・フリーマーケット：リトルケルメス市
- ・ボーイスカウトコーナー：五感クイズ(キムスゲーム)



9. 研究方法

「志のぶわいわいパーク」に参加経験がある様々な立場の方にアンケート調査を依頼。

[対象者]

- ・ 在園児保護者
- ・ 卒園児保護者
- ・ 地域の参加者
- ・ 保育者
- ・ プレイワーカー金井豊明(かないっちょ)氏

[依頼期間]2023年11月25日～12月3日

[依頼・回収方法]Google フォーム

10. 結果

アンケートを依頼したところ 50 名からの回答を得られた

<内訳>

- ・ 在園児保護者 34 名
- ・ 卒園児保護者 7 名 (2 名は在園児保護者兼)
- ・ 地域参加者 1 名
- ・ 保育者 7 名
- ・ プレイワーカー 1 名

合計 50 名 (2 名は在園児保護者兼卒園児保護者のため実数としては 48 名)

10-1 在園児保護者アンケート結果

*アンケート結果内下線は筆者による

[Q1]わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子はどうでしたか？

<複数回掲出内容>

○楽しかった 25 名

- ・ 子供ならではの世界観で、立派な塔を作っていました。(自分の名前も書いてありました笑)とってものびのびと楽しそうに参加していました！(年中女兒母)
- ・ いつものワンダーランドとは雰囲気がガラリと変わっていて、いつも以上に楽しく遊んでいます。(年長男児・満3歳兒女兒母)

○普段と違う遊び 10 名

- ・ いつもの幼稚園と違う雰囲気にワクワクしたような様子で段ボールに絵を書いたりして遊んでいました。(年少男兒母)
- ・ 幼稚園のお友達と、幼稚園とは違う遊びができることが楽しかったとのこと。
(年中男兒母)
- ・ 秘密基地や鉋くずプールなど普段なかなかできない遊びにとっても楽しんでいました！
(年長女兒母)

○わくわく 3名

- ・普段と違う幼稚園にワクワクし、遊びを満喫(年中女児母)

○自由 3名

- ・こうしなさい、あれはしてはダメ、ということが全くない自由な環境の中で、自分の想像力をフルに働かせて遊べて楽しそうでした。(年少男児母)

○夢中 2名

- ・園庭とワンダーランドを行ったり来たりして夢中になっておりました。
(年長・年少男児母)

○興味 2名

- ・いろいろなイベントがあるので、興味を持ったものには積極的に取り組みます。
(年長・満3歳男児母)

○喜んでいる 2名

- ・普段と違う園の様子にとっても喜んでいた。(満3歳女児母)

[Q2] わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化はありましたか？

<複数回掲出内容>

○工作 9名

- ・ワンダーランドにて、段ボールで思いっきり遊べる日が楽しかったようで、それ以来家の中でいらなくなった段ボールや箱などを見つけると工作や落書きを楽しむようになったり、小さなお家のようなものを作って体を動かして遊ぶようになったと思います。ただ遊ぶのではなく、これは〇〇に似てる、〇〇のように見えるなどと想像を膨らませて遊ぶのが上手になったと思います。(年長・年少男児母)

○行きたい 6名

- ・プレイパークを一番の楽しみに何日も前から、行きたい行きたいと楽しみにしています。(年少男児母)

○段ボール、素材、材料 3名

- ・普段は捨ててしまうようなゴミも廃材として、創作の材料とするようになり、「それで何か作るから捨てないで！」と言われるようになった。(年少男児母)

○発想、想像 3名

- ・段ボールにすごく興味を示すようになりました、これを使って何が作れるか、想像したり、実際に試行錯誤しながら何かを作ったりするのがとてもたのしそうです。
(年中男児母)

○秘密基地 2名

- ・秘密基地の遊びから、工作を作るのが好きになってきたと思います。(年長女児母)

[Q3] 志のぶわいわいパークでは地域の人と出会い、再会し、交流することを目的としていますが、どのように思いますか？

<回答から抜粋>

- ・一度交流して顔見知りになるのはとても良い機会ですし、普段の生活でも安全につながることもあるかと思います。(年少男児母)
- ・この地域で安心して子育てが出来るので嬉しいです。(満3歳女児母)
- ・以前住んでいた地域と比較して地域の子どもたちやその家族と交流できる公園が少ないため、幼稚園でそのような場を作っていただきありがたいです。(年長男児母)
- ・地域の人との継続した交流は機会がないとなかなかできないことだと思うので、素晴らしいと思います。(満3歳男児母)
- ・それぞれ違った環境、年齢の子供達との触れ合いで、地域の子供達が輪を広げ、コミュニケーションスキルが自然と身についていく事は素敵だなと思います。(年中女児母)
- ・地域に知り合いが増えることは安全の面でも良いことだと思っており、交流の接点となる場になっていて素晴らしい取り組みだと思っている。(年少女児母)

[Q4] 志のぶわいわいパーク、わいわいプレイパークがどのようになったら良いか、または期待することなどがありましたらご記入ください。

<回答から抜粋>

- ・室内でも遊べて、地域密着型ではあるけれど、外部の方も受け入れる、勝ちどきグロースリンクのような施設があれば良いと思っています。(年少男児母)
- ・対象者から見てハードルが低く、小学生から未就園児まで自由に遊べる場として継続されるとありがたいと思います。(年長女児母)
- ・これからも、親子共に他学年との交流の場や、在園児と卒園児の再会、様々な事情により転園されたお友達との再会の場であってほしいと願います。また会えてまた一緒に遊べる、新しい出会いもある、そんな場所があるということは親だけでなく子供にとってもより安心できる存在になると思います。(年長・年少男児母)
- ・目黒区内の他の幼稚園や保育園も場所を提供して交代制にすれば回数も増え、参加者も増えてさらに地域の交流の活性化になるのではと思います。(年長男児母)
- ・園児自らが考える遊びを、もう少し取り入れてもいいと思います。(年長女児父)
- ・先生方の負担が大きいのではないかと心配(休日出勤で代休がとれているのか、疲れが溜まってないか)、そのあたりについて明示しておいてほしい。(年中男児母)
- ・地域のお店紹介も踏まえた出店は、とても好感が持てますし、継続した関係を築けるので今後も楽しみにしています。卒園児のお手伝いも、子供の社会貢献に繋がると思います。これからもそんな機会があると良いと思いました。(年中女児・卒園生男児母)
- ・長く続けるためには、先生方の負担感が少ない運営方法に切り替えるタイミングも必要

かと思えます。(満3歳女児母)

- ・ 色々な子供達が遊べる場として、未就学児コーナー、小学生コーナーなど、わけてみるのいいと思う。外国の人も気軽にいれるようなコーナーがあったら、いい。季節感があるイベントがあるのも子供達は楽しむような気がします。(年中女児母)
- ・ プレイパークで走ったり跳ねたりするような遊びが出来たら楽しいかなあと思いました。開催回数が増えるにつれてわいわいプレイパークの来場者数が増えているのは良いことだと思うのですが、子供が自由に何かをするにはスペース的に難しいなあと思いました。(年少男児母)

10-2 卒園児保護者アンケート結果

[Q1] わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子はどうでしたか？

<回答>

- ・ 素直にその状況に馴染み、親しみのある園の中で安心して遊ぶ様子。(小学4年女児母)
- ・ 楽しそうにしている、開催しているイベントに集中しています。(小学1年男児父)
- ・ 卒園児の子どもも、懐かしい幼稚園で新しい思い出ができることに、喜びを感じている様子でした。(小学5年男児母)

[Q2] わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化はありましたか？

<回答>

- ・ 先生方のお手伝いができて楽しかった。(小学2年男児母)
- ・ 幼稚園に帰りたい、楽しかった、もっとお友達と一緒にいたかった、など。
(小学4年女児母)
- ・ 小さいお子さんのお世話ができたと言い、自信が少しついたようでした。
(小学2年女児母)
- ・ 寒かったり、暑かったりすると余り外を出たがらないのですが、わいわいパークの時はどんな天候の状態でも行く気満々です。(小学1年男児父)
- ・ 小さな子どもたちを大切にしたいと言っていました。(小学5年男児母)

[Q3] 志のぶわいわいパークでは地域の人と出会い、再会し、交流することを目的としていますが、どのように思いますか？

<回答>

- ・ 地域の情報交換は、地域社会においてとても役立ち、同じ子を持つ親の情報交換がとても効率的に感じます。(小学4年女児母)

- ・卒園しても、幼稚園やお友達と繋がりが持てて、うれしい。(小学2年女児母)
- ・子供も親も同じような感覚だと思います。卒園したら普段はなかなか会えない人とかも再会出来たりして わいわいパーク自体も楽しいけど、そういう再会もスゴく楽しみにしています。(小学1年男児父)
- ・規制の厳しかったコロナ禍の3年間を過ごした親子さんたちには地域の人たちと関われる貴重な機会だと思います。(小学5年男児母)

[Q4] 志のぶわいわいパーク、わいわいプレイパークがどのようになったら良いか、または期待することなどがありましたらご記入ください。

<回答>

- ・常連の保護者、子供達で盛り上がっていて入りづらく、放置されてしまうプレーパークもありますが、それに比べ幼稚園が主体になっているものなら、安心して参加できると思います。(小学2年男児母)
- ・これ以上にないくらいたくさんの来場者と情報共有がなされていると感じます。

(小学4年女児母)



卒園児ボランティアの様子

10-3 地域参加者アンケート結果

[Q1] わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子はどうでしたか？

<回答>

- ・楽しそうに活動している様子が伺える。(ボーイスカウト団員)

[Q2] わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化はありましたか？

<回答>

- ・私たちが提供したゲームを見て自分もやってみたいという意欲的な反応が見られた。(ボーイスカウト団員)

[Q3] 志のぶわいわいパークでは地域の人と出会い、再会し、交流することを目的としています、どのように思いますか？

<回答>

- ・ボーイスカウトの活動を地域の方々にアピールできる良い機会と捉えています。

(ボーイスカウト団員)

[Q4] 志のぶわいわいパーク、わいわいプレイパークがどのようになったら良いか、または期待することなどがありましたらご記入ください。

<回答>

- ・定期的に開催する場にボーイスカウトも自分たちの活動をアピールする目的で参加できればと期待しています。(ボーイスカウト団員)

10-4 保育者アンケート結果

[Q1] わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子で印象に残ったことはありますか？

- ・ 普段は大人しい子が大胆に遊んでいたり、幼稚園では制限があったりすることが 制限なく自由に 出来て、とても 遊びに集中している 姿を目にすることが多い。
- ・ かないっちょさんがいることでいつもと違うワンダーランドの使い方なので、作品など 表現が大胆な 子が居て、その子の 違う一面 を見ることができた。
- ・ かんなくずで楽しそうに遊んでいた H ちゃん。 園生活に見ない様子 をみた。
- ・ かんなくずの においをいいにおい と言っていた。

[Q2] わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化はありましたか？

- ・ プレイパークにほぼ毎回参加している子で、来るたびにプレイパークの指導者に付き、お手伝いをするのが定番になっていて「何をしますか？」と自ら聞いていたり、 自主性も 育まれている。
- ・ 土曜日が近づくと「わいわい今度ある？」と聞いてくる。楽しみにしてくれている。
- ・ 「今日かないっちょさん何するの？」と楽しそうに園庭に入ってきている子がいた。

[Q3] 目黒区には常設のプレイパークが存在しません。職員から見て週末の幼稚園の園庭を利用したプレイパークの実践をどう思いますか？

- ・ 指導者がいるなか廃材や道具を使い、想像力を持ち遊びを生み出す遊び方は公園の遊具での遊びとは全くことなり、とても良いと思う。しかし園庭開放での開催は、この 幼稚園の園庭の広さ・時間の面 で制限も出てくるためもっと広い場所で自由な時間利用できるプレイパークが目黒区にもあればと思う。
- ・ 親同士の交流場にもなり子供たちのいつもと違う公園のようで充実していた。
- ・ 楽しい分片付けが大変なことがある。
- ・ プレイパークのアイデアが普段の保育でも使える。

- ・どこも遊ぶポイントが楽しいようだ。
- ・小学生が片付けを手伝ってくれることがある。
- ・説明会以外の園見学になっている。
- ・兄弟と一緒に遊べるのがいい。



[Q4]志のぶわいわいパークでは地域の人と出会い、再会し、交流することを目的としていますが、どのように思いますか？

- ・知らない人との交流が無くなっている現代で、交流するきっかけを作る場があることは良いと思う。
- ・参加することにより、知らない人同士での交流も増え、子供同士がコロナ禍で関わりづらかったのが、知らない子とも関わっている姿が見られた。
- ・うらやましい。ふだんの生活にないことができて良いと思う。
- ・情報の共有の場(親同士)となっている。
- ・良いと思う。ここで仲良くなっている人もできた。
- ・ボーイスカウトの参加でイメージが良くなっていると思う。その内容も素晴らしい。
- ・良いことと思う。卒園生がワンダーランドで楽しく遊ぶことができる機会。

[Q5]志のぶわいわいパーク、わいわいプレイパークがどのようになったら良いか、または期待することなどがありましたらご記入ください。

- ・短時間ではあるけど、行って良かった、面白かった、こんな思い出が出来たなど普通の遊びにはない何かを得られる空間や時間であればと思います。
- ・初期の風船を配るなどは並んで全然遊んでいる雰囲気になかったのですが、今年は30分くらいの抽選会だったので前よりは子供達が交流する姿が見られた。抽選会より、特別遊具などを取り寄せたわいわいパークも楽しいと思いました。
何か一つわくわくなことがあると人数が多い気がする。
- ・Hくんのお父さんは入園前に同じ年の子はどこにいますか？と尋ねてこられた。
コミュニティの始まりを見た。
- ・園長先生の次は〇〇！という企画に期待。
- ・父親が園の様子を知り、職員との関係をなだらかに作る時間になっていた。
- ・自由にお絵描きやはさみ・テープ・マジックを好き放題に遊ぶことができた。
(良い面・反対面あり)
- ・自転車などの交通整理が大変。
- ・園庭が狭いため混雑した時に子どもの安全が確保できない。のりものも少ないため、トラブルがおきやすい。

10-5 プレイワーカーアンケート結果

[Q1] わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子で印象に残ったことはありますか？

- ・やはり 普段の園庭とは印象が変わることで子どもたちの表情や様子がわくわくしているように見られる。 わいわいパークでは、ペンやテープ、紙コップなどの素材について、使い方や用途などくに固執せずだれでも自由に使えるようにしている。それ故にものが散らばってしまったりすることもあるが、それ以上に 遊びの創造を感じられる場面が多い ように思える。気づくと絵の描かれた紙コップが並べられていたり、謎なものが吊るされていたり、たくさんのペンを箱に入れることを楽しんでいる幼児さんがいたり、ペンがテープで飾られていたり、思いもよらない遊びの展開が見られる。

[Q2] わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化はありましたか？

- ・何度も来てくれている子は、一緒に行く展開を手伝ってくれたりもして、その姿は 一緒にミッションをこなす仲間のような感覚でともに場をつくり盛りあげてくれている。強要するわけでもなく、たとえばペンのフタがなくなったらフタを探すミッションが始まったり、「こうしょっか!」、「こうするのはどう?」とアイデアをくれたりする子も出てきている。

[Q3] 目黒区には常設のプレイパークが存在しません。かないっちょさんから見て週末の幼稚園の園庭を利用したプレイパークの実践をどう思いますか？

- ・「まずは実践する。そして知ってもらう。」ということがとても大事だと思っているので、まさに大事な一歩だと思います。そしてそこから来園する父母たち、大人たちが、今はまだ受け手ですが 主体的にこういった場が目黒にももっとほしい。 そのためにはどうしたらよいのかと一緒に考えてもらえるような関わり方、場の展開の仕方が今後重要になってくると思っています。

[Q4] 志のぶわいわいパークでは地域の人と出会い、再会し、交流することを目的としています。どのように思いますか？

- ・地域の人との出会いや交流、再会、コミュニティーが薄れがちな今、そのきっかけとして 幼稚園が拠点となり子どもたちを中心に人と人を近づけるよい役割になっていると思います。そこからさらに近隣のつながり、おじいちゃんおばあちゃんたちとのつながり、地域全体で大人たちが子どもたちに優しくなれる街になれば素晴らしいです。

[Q5]志のぶわいわいパーク、わいわいプレイパークがどのようになったら良いか、または期待することなどがありましたらご記入ください。

- ・園庭のスペースに対しての参加者がとても多いイベントでもあるので、現状ではどうしても「わいわいプレイパーク＝遊ばせてもらえる場所」という印象が強いかもしれないが、大人たちにここで子どもたちの遊びの風景を見てもらいまた一緒に遊びながら、わいわいパークの目指す「もの」や「こと」について感じてもらうこと。そこから上にも述べたように一緒になってこの地域のことを考えてもらえるようになってもらえたらと思う。

[Q6]プレイパークの魅力について教えてください。

- ・プレイパークは、たくさん失敗していいところ。たくさん失敗できるところ。チャレンジしていいところ。チャレンジできるところ。じぶんとそうだんしてちょっとくらいはムチャしていいところ。ムチャできるところ。あそぶだけでなくってのんびりしていいところ。のんびりできるところ。ケンカもおこることもあるし、ときにはケガをしてしまうこともあるけれど、なにかあればスタッフが見ている、こどもたちだけで解決が難しい場合は間に入ることもあるし、子どもたちだけで解決できるもんだいか見守り、ときには見守りに徹することもある。
プレイパークはサービスをする場ではなく、プレイパークに来るみんなとともにこの場を作って育てていきたいと思っている。だから大人だって遊んじゃってOK。遊び心も大事。大人もやってみたいを実現してもいいところ。
でも主役はこどもなのを忘れないで！困ったときはおたがいさま。「すみません」ではなくて「ありがとう」の関係をいっぱいつくりたい。いつきてもいいし、いつ帰ってもいい。来たくないときには来なくてもいいところ。

[Q7]プレイワーカーの役割について教えてください。

- ・上記のことを考えながら時にあそびのきっかけを作ったり、大人を含め人と人や、必要と感じれば子どもたちをつないだり、あそびを見守り、時に一緒に遊び、あそびの状況を見極める人。

[Q8]わいわいプレイパークに来る子どもたちへメッセージをお願いします。

- ・いつもわいわいプレイパークを楽しみにしてくれてありがとうございます。毎回来てくれ「かないっちょ」と名前を覚えてくれる子たちも増えてとても嬉しいです。今日はどんな子たち、どんな大人たちが来てくれて、どんな遊びやどんな不思議なことが起こるかな～と楽しみでたまりません。次のわいわいプレイパークはどんなことをしようかなー。アイデアがあふれています。みんな楽しみにしていてくださいね。

11. 考察

11-1 わいわいプレイパークに参加した子どもの反応や様子

アンケート結果から、保護者の多くは子どもが楽しく取り組んでいる様子を受け取っている。なかでも「楽しかった」「わくわく」「夢中」「興味」「喜んでいる」のワードは、ねらいを定めたカリキュラムのなかでも一定の成果を出しやすいが、「普段と違う遊び」「自由」のワードは、プレイパークの持つ場の力によるところが大きい。そこにはプレイワーカーが園庭の特徴を捉えながら、園庭をあるものとしてではなく、園庭はなるという考え方により活用の可能性を広げていることから「普段と違う遊び」が生まれる。また、家庭の協力により事前に集められた布生地や段ボールなどの素材をダイナミックに使用し、秘密基地という子どもたちのパーソナル空間を製作することで、子どもの創造力と想像力を掻き立て、普段の保育とは異なる「自由」な遊びに展開していることがわかる。

保育者は、「普段と違う遊び」が展開されていることにより「普段は大人しい子が大胆に遊んでいたりと、幼稚園では制限があったりすることが制限なく自由に出来て、とても遊びに集中している」「いつもと違うワンダーランドの使い方なので作品など表現が大胆な子が居て、その子の違う一面を見ることができた」のようにプレイパークでの自由な行動を開放的と受け取っている。プレイワーカー金井氏はプレイパークの魅力について、「たくさん失敗していいところ。たくさん失敗できるところ。チャレンジしていいところ。チャレンジできるところ。じぶんとそうだんしてちょっとくらいはムチャしていいところ。ムチャできるところ。(中略)ケンカもおこることもあるし、ときにはケガをしてしまうこともあるけれど、なにかあればスタッフが見ている、子どもたちだけで解決が難しい場合は間に入ることもあるし、子どもたちだけで解決できるもんだいか見守り、ときには見守りに徹することもある。」と述べているが、失敗していい、チャレンジできるという場を提供していることが開放的につながっていると推察できる。

ただし、留意点として「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」において、事故の発生防止に関する活動として「子どもの特性を十分に理解した上で、事故の発生防止に係る行動の確認や事故に発展する可能性のある問題点を把握し、事故の発生防止に取り組む。」とあることから、子どもの特性をプレイワーカー・保育者・地域の大人が共有することは重要なことである。

11-2 わいわいプレイパークに参加した子どもから具体的な発言や行動の変化

子どもたちの発言からは、楽しかったという言葉だけではなく「何日も前から行きたい行きたい」「明日はわいわいパークやってる？」など、わいわいパークの開催を期待する発言が多く見られた。また人間関係として「週末も上のクラスのお姉ちゃんと遊べて嬉しかった」や、卒園児からは「小さな子どもたちを大切にしたいと言っていました」のように異年齢との関わりは、時間軸循環の実体験である。

行動の変化としては、多くの廃材を利用しながら自由な発想で秘密基地を作ることが、工作を好きになることだけに留まらず「普段は捨ててしまうようなゴミも廃材として、創作の材料とするようになり、「それで何か作るから捨てないで！」と言われるようになった」「段ボールにすごく興味を示すようになりました、これを使って何が作れるか、想像したり、実際に試行錯誤しながら何かを作ったりするのがとてもたのしそうです。」などの言動から、素材は与えられるものではなく、これほどのように使えるか、変身するかななどを日常生活にて想像する力が芽生え、能動の意識変化としてあらわれていることがわかる。

11-3 志のぶわいわいパークの目的(地域の人と出会い、再会、交流)

時間軸循環では、卒園児保護者から「卒園したら普段はなかなか会えない人とかも再会出来たりしてわいわいパーク自体も楽しいけど、そういう再会もすごく楽しみにしています」「卒園しても、幼稚園やお友達と繋がりが持てて、うれしい。」、在園児保護者からは「わいわいパークのような卒園しても帰って来られる場所、幼稚園時代のお友達や先生と気軽に再会できる場所があることは本当に心強いことです。」のようにつながり続けることができる場があることの必要性を受け取ることができる。地域循環では、「地域の情報交換は、地域社会においてとても役立ち、同じ子を持つ親の情報交換がとても効率的に感じます。」「一度交流して顔見知りになるのはとても良い機会ですし、普段の生活でも安全につながることもあるかと思います。」「この地域で安心して子育てが出来るので嬉しいです。」「地域に知り合いが増えることは安全の面でも良いこと。」のように情報交換を伴う地域交流は安心安全な生活へつながるきっかけになることがわかる。

しかしながら「地元企業との交流は成功していると思います。ただ、個人間での交流はあまり感じたことはありません。」「交流が広がることは素晴らしいことである一方、場所が幼稚園となると、どうしても在園児や兄弟、入園検討の未就園児など限定されるイメージがある」などの回答があり、地域交流の仕掛け作りや、より開放的な空間にするために工夫をしていく必要がある。

また「以前住んでいた地域と比較して地域の子どもたちやその家族と交流できる公園が少ないため、幼稚園でそのような場を作っていただきありがたいです。」の回答から鑑みると、目黒区では子育て世帯が交流する場が少ないという地域性が浮かび上がった。

11-4 今後どのようにしたら良いか(課題、期待)

本論タイトルの前半である「持続可能な地域づくりの循環拠点」に対し、保護者の「親子共に他学年との交流の場や、在園児と卒園児の再会、様々な事情により転園されたお友達との再会の場であってほしいと願います。また会えてまた一緒に遊べる、新しい出会いもある、そんな場所があるということは親だけでなく子供にとってもより安心できる存在になると思います。」の回答には、時間軸循環と地域軸循環が絡み同時進行している

と受け取ることができ、「志のぶわいわいパーク」が地域交流の循環拠点として一定の成果を出しているといえよう。また特筆すべき点として「区としての取り組みに繋がるように盛り上げていければ嬉しいです。」「目黒区内の他の幼稚園や保育園も場所を提供して交代制にすれば回数も増え、参加者も増えてさらに地域の交流の活性化になるのではと思います。」といった回答では、我が子が通う園のみではなく、地域の子どもたちにも様々な経験や交流をしてもらいたいという視点がある。この視点について、各地域で行政やステークホルダーを交えた議論を活性化させていくことが地域交流の可能性を広げていくことにつながるといえよう。

本論タイトルの後半である「週末の幼稚園を活用した園庭開放の可能性」の課題としては、「先生方の負担が大きいのではないかと心配(休日出勤でちゃんと代休がとれているのか、疲れが溜まってないか)、そのあたりについて明示しておいてほしい。」「長く続けるためには、先生方の負担感が少ない運営方法に切り替えるタイミングも必要かと思っています。」という回答に対し、持続可能な開催をするためのシステムを作ることがあげられる。弊園は1年単位の変形労働時間制を用いており、園庭開放日は規定の出勤日にはあるが、職員が土曜日に出勤することに対する保護者理解が課題となった。裏を返せば通常の保育に支障が出ないことを保障した安定した体制づくりが必要である。

12. おわりに

筆者は私立幼稚園の本業について、建学の精神に則り、職員一同が幼児教育の質の向上に努め、子どもたちが健やかに成長するために家庭と連携を図りながら、子どもたちが幼年時代を精一杯生きられる様に、讚え、守り、次の時代に託すことと考える。

しかしながら、その本業である不易を維持し発展していくためには、子ども・子育て支援新制度、幼児教育の無償化、多様な他者との関わりの機会創出事業、こども誰でも通園制度など子どもを取り巻く制度や環境が目まぐるしく変化するなかにおいて、流行を見通しながら実践をしていくことが重要である。本論においては、「志のぶわいわいパーク」を通し、幼稚園は地域資源であることを再考し発信することにより地域社会のなかで価値を共有することの必要性を述べてきた。そのような場が持続可能な地域を形成するうえで有効であるという仮説に対し、アンケート結果そして考察を踏まえたうえで有効であるといえよう。

さらに場の質を高める実践である「わいわいプレイパーク」では、プレイワーカーの存在が幼稚園という場の可能性を広げ地域の子どもたちの自発性を促進させることに寄与していることが明らかとなった。

しかしながら、園庭の広さに対し来場者が多い場合の対策、職員が週末に出勤することへの対策などの課題や、そして何よりも幼稚園業界に対し、「幼稚園は地域の重要な資源であり、その存在価値を地域の人々と共有することが、持続可能な地域づくりに大きな

役割を果たす」というメッセージを発信し、各地域で議論し実践へつなげていくことなど多くの課題がある。

今後も「志のぶわいわいパーク」を定期的開催しながら、上記の課題を克服し、子どもが地域の様々な資源と出会い時間軸循環と地域循環を実現しながら持続可能な地域づくりに貢献することをミッションとして取り組んでいく所存である。

最後になるが、この研究報告を進めるにあたり、「志のぶわいわいパーク」に関わっていただいた関係者・来場者、毎回クリエイティブな発想で子どもたちの可能性を広げてくださる金井氏、「子どもは地域の鍵である。お父さんお母さんはおじさんお婆さんになれ。」という地域に対する視座をくださったふれあいの家おばちゃんちの宮里氏、かんなくずプール体験で木育先生をしてくださりワーク・ライフ・プレイミックスの実践をされている森と市庭の菅原氏、アンケートに答えてくださった皆さまに感謝の意を申し上げます。この微力な本論が持続可能な地域を構成するひとかけらになることを願います。

<参考文献>

- ・目黒区(2020)『目黒区子ども総合計画(令和2年度～令和6年度)』目黒区
- ・目黒区『認可保育園等の施設、サービス等の紹介』
<https://www.city.meguro.tokyo.jp/hoiku/kosodatekyouiku/hoikuennado/ninnkahoikuenngaiyou.html>(最終閲覧 2024.1.18)
- ・木内信蔵(1968)『地域概論—その理論と応用』東京大学出版会
- ・三橋伸夫 他(2022)『地域デザイン技法 地域を「読み・解く」55のアプローチ』北樹出版
- ・志のぶ幼稚園 (1936)『久光1』志のぶ幼稚園久光事業部
- ・石井大一郎/霜浦森平(2018)『はじめての地域づくり実践講座』北樹出版
- ・遠藤みゆ『アソビのタネ』
<https://playworkers.hateblo.jp/entry/2017/01/30/174800>(最終閲覧 2024.1.18)
- ・平成27年度教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関する調査研究事業検討委員会『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～』
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/03f45df9-97e1-4016-b0c3-8496712699a3/39b6fd36/20230607_policies_child-safety_effort_guideline_02.pdf (最終閲覧 2024.1.18)

共同研究者

(代表) 岡 秀樹 (志のぶ幼稚園)
渡部 清美 (志のぶ幼稚園)
平林 律子 (志のぶ幼稚園)
小林 裕一 (志のぶ幼稚園)
安倍 由貴 (志のぶ幼稚園)
酒井 真由 (志のぶ幼稚園)
アルテロ・ミシェル (志のぶ幼稚園)
柴田 侑理加 (志のぶ幼稚園)